

# つるみの風

つるみの風 第42号  
2020年9月26日発行  
鶴見聖契キリスト教会  
〒230-0074 横浜市  
鶴見区北寺尾1-16-7  
TEL 045-572-0857

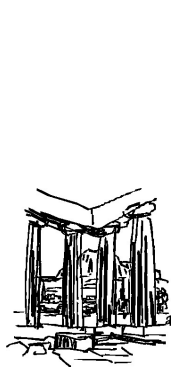
## 「コロナ禍で畑を買う」

「いかががお過ごしでしょうか」というお決まりの挨拶が、今や心底安否を問うことばと化している現在の世界。だからもう一度言わせてください。いつまで続くのか先行きの見えないコロナ禍の中、いかがお過ごしでしょうか。小中高校は授業を再開し、スポーツ観客の人数制限は緩和され、観光地に人が戻りつつも、首都圏の新規感染者数は高止まりで、マスクは手放せず、三密回避はもはや無意識の常識となりました。ウイズコロナと横文字で言うところのいいのですが、樂觀してはいけない現実から社会全体が目を見逃し、大丈夫と思いつまみだされていくような不安を感じさせられます。

オンライン業務があまりにも常態化し、朝から晩まで仕事場に閉じこもりきりのため、ついに心身が悲鳴を上げて、結果、二つのことを習慣づけました。ひとつはラジオ体操、もうひとつは夜の一時間ウォーキング。後者のお陰で住まい周辺の地理に詳しくなり、社会の雰囲気を感じられるようになりました。皆さんはコロナ禍でどんな生活を続けておられますか。

●バビロン捕囚前夜  
重苦しい通奏低音が常に聞こえるような今の世界。似た響き

を聖書に探すなら、ズバリそれはバビロン捕囚直前のエルサレムでしょう。時は紀元前五八七年、すでにエルサレムは敵国バビロンに包囲され、一年以上が経過して、食糧事情は急速に悪化、おそらく疫病も蔓延していることでしょう。壮麗な神殿を擁する神の国イスラエルの栄光、ダビデ・ソロモンの栄華も今は失せ、陥落は秒読みです。



なぜそうなったのかと歴史を遡れば、神が全世界の祝福を使命とするアブラハムと契約を結んで形成され、「聞け、イスラエルよ。主は私たちの神。主は唯一である。あなたは心を尽くし、いのちを尽くし、力を尽くして、あなたの神、主を愛しなさい」(旧約聖書 申命記六・四、五)を国是として歩むべきイスラエル民族が、エジプト脱出後、約束の地カナン(豊穡神パアル)に心惹かれ、二心の不倫状態に陥ったからでした。

●預言者エレミヤの苦悩  
「預言者」とは未来予告の「予言者」と別で、神のことばを預かり時代の民に伝えて神への従順を促す役目を担います。エルサレムに近しいアナトテ出身のエレミヤは、南ユダ王国末期に神から遣わされた預言者でした。そのメッセージは単純です。「バビロンに降伏せよ」。現実を直視せず、イスラエルの栄光再びとの幻想にしがみついた人々に、冷や水を浴びせようとするこのメッセージがどう響くか、察しがつくでしょう。まるでこれは第二次大戦末期「連戦連勝」の大本営発表に戦勝旗を振らされ、現実を直視して「日本は負ける」と言おうものなら「売国奴」「非国民」の烙印を押された日本国民そのものです。「この都エルサレムは主なる神によりバビロンに渡され、人々はバビロンに連行される」と真実を伝えたエレミヤは、ゼデキヤ王の命令で、宮殿にある監視の庭に監禁されました(旧約聖書 エレミヤ書三二・二、三、五)。政府を批判する民主活動家が逮捕監禁されたり、暗殺されたりする事件が最近も頻発していますが、今も昔も変わりませんね。

●アナトテの畑を買え?  
そんなある日、エレミヤのもとにおじの子ハナムエルが訪れ、「どうか、ベニヤミンの地のアナトテにある私の畑を買ってください。あなたには所有権もあり、買い戻す権利もありますから」と願います。主なる神から予告されていたエレミヤは、これが神から出たことと察知しました(三二・六、八)。アナトテはエルサレムの北東約4kmにあり、エレミヤの出身地ですから一族が住んでいたのでしょう。親族の土地が他人の手に渡るよう、嗣業の地として買い戻すのはイスラエル民族の

たいせつな義務でした。それにしても、です。この時すでにアナトテはバビロンの占領下であり、ましてや南ユダ王国そのものが亡国の危機に瀕していたのです。その現実を伝えるエレミヤは監禁の身。アナトテの畑を買い戻すことには、いったい何の意味があるのでしょうか。彼は、これが主のことばであると確信し、代価を払って買い取りました。証書に署名して封印し、証人を立て、購入証書を二通作成し、土の器に保管したのです。神の約束は確かです。「…これを長い間、保存せよ。なぜなら――イスラエルの神、万軍の主はこう言われる――再びこの地で、家や、畑や、ぶどう畑が買われるようになるからだ」(三二・一四、一五)。何丁目何番地の畑、それを代価を払って買い取る、この確かさと具体性こそ、滅びのイスラエル回復の確かさの先取りなのですね。

●「しかし」でなく「それゆえ」  
この後、エレミヤは絶望的現状と、アナトテの畑を買う不調和を神に訴え、対する神はなぜイスラエルがバビロンに滅ぼされることになつたのか、その経緯を淡々と語りまします。ところが、神のさばきのことばが延々と続くエレミヤ書三二・三章は、三六節で突然「それゆえ今」と筆が改まるのです。エレミヤに語られた主のことばに聞きましよう。「見よ。わたしは、かつてわたしが怒りと憤りと激怒をもって彼らを散らしたすべての国々から、彼らを集めてこの場所に戻らせ、安らかに住まわせる。彼らはわたしの民となり、わたしは彼らの神となる」(三二・三七、三八)。

●それでも私は主にあって  
エレミヤと同時代か、少しだけ前の預言者ハバククは、エレミヤと似た状況下、神と格闘するような預言の締め括りにこう告白します。一番新しい翻訳聖書、聖書協会共同訳で紹介しましょう。これは歌です。  
いちじくの木には花は咲かず  
ぶどうの木は実をつけず  
オリブも不作に終わり  
畑は実りをもたらさない。  
羊はすべて困りから絶え  
牛舎には牛がいなくなる。  
それでも私は主にあって喜び  
わが救いの神に喜び踊る。  
神である主はわが力  
私の足を歩ませてください。  
高き所を歩ませてください。  
指揮者によって。弦楽器で。  
(ハバクク書三・一七、一九)

【裏面に続く】



鶴見聖契キリスト教会ホームページに関するお知らせ  
ホームページに毎週の式次第と説教音声を掲載していますので、ご活用ください。  
URL : <http://www.tsurumi-covenant.com>  
または、「鶴見聖契キリスト教会」で検索してください。